

kagoshima local network

みなみネット@鹿児島都市圏

50、60代男性のしゃべり場発足

鹿児島講座きっかけ月1回

趣味や近況、本音トーク楽しむ



「女性も歓迎ですよ」と楽しそうに話す「ぷらんぷらん きらきら」のメンバー
—鹿児島市のかごしま県民交流センター

鹿児島市のオジサンたち、本音で話そうぜー。仕事や住む地域に関係なく集まった50、60代の男性たちが、しゃべり場づくりを始めた。月に1回集まり、雑談に花を咲かす。シニア世代が生き方を共に考え、楽しむ場になりつつある。

しゃべり場をつくったのは「ぷらんぷらん きらきら」(財部和幸代表、13人。鹿児島県が昨年、第二の人生をテーマに開いた「男のスターティング・ノート」講座の修了生有志で、この春発足したグループだ。ユニークな名前は「ゆつくり、気長に」のインドネシア語に由来する。財部さん(64)は薩摩

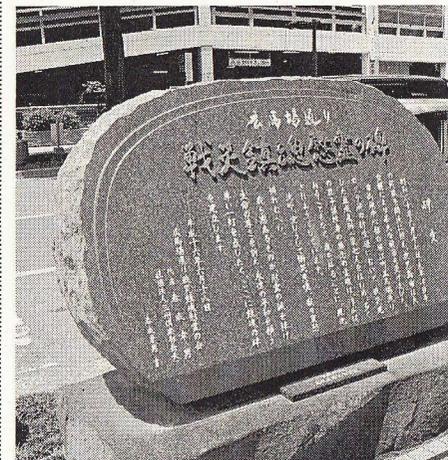
じられたまま、物音一つもない。表面に煙がくすぶり続ける扉に不安が募った。しばらくして警防団(当時の消防団)の今村清蔵団長(当時44)が姿を見せた。春成さんは警防団員と力を合わせ、扉をこじ開けた。

「うわっ」と先頭にいた団員が叫んだので、壕合いらが駆け付けトラップ

その晩、春成さんは1人通夜をしたが、家族を一度に失った衝撃のためか、記憶は途切れがちになる。

ひつぎに遺体を納めたこと、父親の仕事の知り合いらが駆け付けトラップ

春成 幸男



「今は平和なこの周辺で69年前。たことを時には思い起こしてほさん

ければ、疎開し、すんだ、そんな、なまれば、持ちを、軍予備、するこ、えた。戦後、時を過

川内市は「会社を退職するとどこにも所属感がなくなり、不安に駆られる男性は多い。本音で話せ、行くのが楽しみな場所をつくりたかった」と話す。

5月31日、鹿児島市のかごしま県民交流センターであった定例会には、鹿児島市や始良市など県内各地から7人が参加。現役時の会

社に再雇用されて後輩指導に当たる61歳や、早期退職後、緊張しながら新しい仕事に挑む59歳、料理や畑の作り方講習に通い始めた66歳など、全員が日々の近況を報告しあった。

続く雑談は、趣味の山登りの話から原発、地域のごみ屋敷、認知症まで縦横無尽に話題が広がった。役場職員

鹿児島市交通局は、8月以降採用の軌道整備士と自動車整備士を若干名募集している。1次試験が6月21日、山下町の青年会館である。受験申し込みは16日必着(持参は平日午後5時まで)。

いずれも1983年4月2日自動車、軌道整備士募る交通局 16日締め切り

以降に生まれ、高校か修業年限3年以上の高等課程専修学校の卒業者。軌道整備士は土木関係の学科を専攻し、中型自動車免許(8ト未満限定を含む)取得者。自動車整備士は3級自動車整備士以上(二輪自動車を除く)の資格と大型自動車免許がある人が対象。同局=099(257)2111。

鹿児島市行政改革推進委員会(会長・井上佳朗鹿児島大学法文学部教授)が9日、市役所であり、行政改革大綱に基づく実施計画(2010~14年度)の取り組みについて意見交換した。市は、13年度末時点の計画147項目のうち142を設

南伊敷地区の区画整理始動 年内着工目指す

土地所有者でつくる組合が主体となる鹿児島市南伊敷土地区画整理事業が事実上、始動した。計画では、施工区域は伊敷町と西伊敷1~3丁目の一部地域で約19万4800平方メートル、総事業費37億6700万円、事業期間2018年3月末まで



の三腰善行さん(54)は「退職の日が自分にも来る。地域で豊かに楽しく生きていくためのヒントをここでもらいたい」。

会員らは「いずれ、それぞれの能力を生かしたベンチャーでも起こせたらいいよね」と夢も語り合っている。

財部さんの連絡先は robin-ki@topaz.ocn.ne.jp (門田夫佐子)

とした。現在、市や県に必要な許可を申請しており、年内の着工を目指す。

区域は伊敷団地に隣接する山林を中心とした傾斜地で、宅地として条件が良く、04年から計画を進めていた。今年4月末、市から組合設立の認可を受け、5月18日に第1回総会を開催。同20日の理事会で坂口光浩理事長を選出した。

計画によると、戸数

市行政改革 達成率97%

市、推進委で報告

鹿児島市行政改革推進委員会(会長・井上佳朗鹿児島大学法文学部教授)が9日、市役所であり、行政改革大綱に基づく実施計画(2010~14年度)の取り組みについて意見交換した。市は、13年度末時点の計画147項目のうち142を設